



基礎品質の向上で、住宅の安心・安全を高いものに。有限責任中間法人日本住宅基礎鉄筋工業会は、11日に行われた総会の場で、基礎鉄筋に関する統一基準作成に向け、専門委員会の活動開始を宣言した。

一般に「住宅」と聞き想起するのは、基礎から上の部分だろう。だが、そのデザイン実現のキャンパスとなる外壁や、身も心もくつろいで過ごせる室内を支えているのは、構造物の重量を一身に引き受ける基礎部分。総会でのあい



品質や技術で基礎鉄筋のさらなる向上を目指す

日本住宅基礎鉄筋
工業会理事長

山口 龍 二さん

機関誌「レインフォースメント—The基礎—」に、「業界を挙げてレベルの向上が求められる」とあいさつ文を寄せた

協会が目指す最終目標は、基礎鉄筋の製品規格や設計積算基準、住宅基礎施工方法などの標準化だ。このため今年度から技術、部材、総務の各委員会では会員各社の現状ヒアリングなどを開始、統一基準取り決めに向けた行動を始めた。同時に、製造管理技術士や基礎施工管理士、設計積算士など、品質や精度確保のためのライセンス制も導入したいと考えた。

社長を務めるタツミは、新潟を本社に展開する国内最大手の接合金具メーカー。「テックワン」や「クレテック」などの製品を供給し、住宅強度向上の一翼を、ここでも担っている。

(え)